



発行 SV2004 (宮城県仙台市)

発行日 2009年5月15日 (月1回発行)

私たちはスポーツボランティア活動を応援します

今月の特集

1. 「ボランティア活動を楽しむ工夫」
～ 全国アンケートより 1P
2. 「楽しさ」が活動のエネルギー
～ ボランティアコラム 2P-4P
3. SV2004企画報告 5P-7P
「スポーツボランティア・フリートーク・フェスタ」

全国アンケート

ボランティアを楽しむ工夫

全国で活動するスポーツボランティア、その活動の原動力はなんなのでしょう。地域のスポーツや、チームが好きだからに始まり、活動に参加している中で出会う「様々な楽しさ」が、その動機という方々も多いようです。どんな楽しみがあり、そのためにどんな工夫をしているのか、各地のボランティアに聞いてみました。

最初に「楽しい」ことの内容についての回答が寄せられました。その内容は大きくふたつに分けられひとつは特典に類するもの、もうひとつは精神的な満足につながるものでした。

【ボランティアだからこそ得られるものが楽しい】 活動によって得られる特典

VIPラウンジなど普段一般の人が入れない場所での懇親会 (新潟・宮城)

選手やスタッフと一緒に打ち上げに参加できる (全国各地)

参加回数によってポイントがたまりグッズやチケットと交換できる (静岡・宮城など)

年号の入ったボランティア専用のバッチや、全てのボランティアに感謝状というチームもありました。(宮城)

ボランティアのために企画された研修ツアーや応援ツアーに参加できる (長野・千葉・宮城など)

【活動による心の充実感が楽しい】 参加すれば人と出会いつながりが生まれ世界が広がる

お客様の笑顔や感謝の言葉が何よりうれしい (東京・佐賀など)

チームの勝利を思うこと (静岡)

友達や仲間をみつけ様々な交流をすること (新潟・宮城など)

次に、活動のモチベーションとなる「楽しさ」を生み出す為に、各地のリーダーや組織はどのようなことに注意し活動しているのかに関する回答が、前述の「楽しさ」の内容以上に数多く寄せられました。

【コミュニケーションを良くする】 気持ちよく活動することが「楽しさ」に繋がる

アンケートやボランティア通信、直接のヒアリングを通じて当日の出来事や反省点を吸い上げ情報を共有する (新潟)

当日の活動で気づいたこと、直すべき事、伸ばして行く事は全ての活動が終わってからみんなで話す事 (岐阜)

あいさつはもちろん、ことあるごとに会話する (山梨)

【仲間意識を育てる為に】 思いをともにする仲間がいてこそ「楽しさ」は倍増する

配置は友達や仲の良い人を同じ場所にしています (山梨)

業務ごとにすわる机を決めて、活動開始から一緒に活動するようにしています (広島)

活動が同じ場所にならないように配置を変え不公平感をなくしています (静岡)

一緒にやることで一体感を作る為、出来る限り分業化しないようにしています (新潟)

【楽しさを生み出す為、自分自身がしている工夫】 リーダーだからこそその工夫もあります。

毎日鏡の前で「笑顔」を作る練習をしています (神奈川) 活動ごとにプチ目標を決めています (山形)

ボランティアの顔と名前を覚えるように意識しています (広島)

毎回、一緒にボランティアしている人たちの良いところを一人ひとつは見つけるようにしています (岐阜)

【組織としての工夫】

MLで出欠確認していますが、特に欠席するメンバーには一声返信しています。次回少しでも気持ちよく参加していただければいいと思うからです。(長野)

皆勤賞以外に、5年継続して参加のボランティアも表彰しています (長野)

コミュニケーション委員長(仮)を選任しました。(長野)

そして、最後に何名かの方が挙げていたのが下記の言葉でした。意外と思われるかもしれませんが余裕をもってということだと思います。

頑張りすぎず、適度に手を抜く事/無理しないこと (神奈川・新潟など)

(1) 応援する気持ち～支える喜びと楽しさ

スポーツのボランティア活動を長く続けていると、多くの人と出会いそして話しをします。それは同じボランティア仲間のことであれば、行政やメディア・卒論を書いている学生もいますし、スポーツについて研究している大学関係者も増えていきます。そこで必ず質問されるのは、「何故この活動をやっているのですか。」というものです。ほとんど無償で多くの時間を費やしスポーツのイベントを支えること、その理由を完全に理解していただくのは正直難しいことです。何故ならベースにあるのは「楽しい」ということですが、活動している中でその「楽しさ」を感じる対象が刻々と変化しました人によって違うのですから。

<「勝利が報酬」の裏にあるもの>

各地のボランティア組織の方々と話していて、チームの成績が落ちたら参加するボランティアが減ってしまった。という声を聞くことがあります。これは観客数も同じですが、チームを応援したいから活動に参加する、活動の一番の報酬はチームの勝利という人も多いのも現実です。

2008年3月30日(日)この日宮城県塩釜市の体育館ではプロバスケットボールbjリーグの仙台89ERSと新潟アルビレックスの試合が行われていました。新潟は東カンファレンスの2位を目指し、一方の仙台はこのゲームで勝てば東カンファレンスの1位を決める大事な試合で、まさに一進一退の内容でした。最終の第4クォーター残り10秒、仙台は78-79で一点のビハインド、誰もがわずかな奇跡を信じて両手を合わせ最期となるはずの仙台の攻撃を見守りました。そして、残り2秒、シュートが決まり逆転に成功するのです。その残り時間のなんと長く感じられたことか、新潟のシュートがリングにはじかれた瞬間、会場の大半の人が立ち上がり、ある人は手を上げ、ある人は隣の人と抱き合い、ある人は仲間と握手を交わしていました。そこではボランティアも、観客もチームの関係者もひとつでした。もちろん、このような劇的な瞬間に誰もが立ち会えるというものではありません。けれど、時として訪れるこのドラマのような瞬間のために、長く時として苦しい活動している、そんな気もするのです。

ボランティアの控え室では、良くこんな会話が聞かれます。「私がボランティアに参加すると必ず勝つんだよね」「そうそう、私だって一試合しか負けてないのよ」、もちろん黙って勝った試合数と負けた試合数を数えている人もいるでしょうが、ボランティアの願いはやはりホームチームの勝利なのでしょう。それは視点を変えれば「チームが強くなるために応援する」「チームがそこにあり続けるためにサポートする」ということにも間違いなくつながっているはずだと思うのです。

<ささやかなふれあいと感謝>

活動シーズンが終わると、多くの組織で「ボランティア感謝祭」などの企画が開催されます。この日ばかりは、チームの関係者や場合によっては選手も参加し、シーズンを振り返ったり、サインや写真撮影をしたり、飲食を楽しんだりします。(内容は運営組織によって違います)また、活動への参加回数の多かったボランティアを表彰するなど、様々なプレゼント企画を行うところもあります。どのように、ボランティアのやる気を維持するかという視点から、これ以外にも多くの取り組みがあり、それを楽しみにしているボランティアも多いようです。

スポーツのボランティア組織が増加し、交流が活発化するにつれて定期的に「研修ツアー」を行なうところが増えてきました。ボランティア活動を運営する組織がバスをチャーターし、他の地域のボランティア活動の体験のためにツアーを企画、ゆっくりゲームを観戦することも含めて楽しむのです。また、ゲームごとに活動終了時に、運営組織の代表者や選手の代表がお礼のメッセージを伝えることを大切にしている組織もあります。大切なのはいかに、ボランティアをそしてその活動の価値を正しく認めていくか、その姿勢は内容はともかく粘り強く継続してほしいものです。

<出来ることで>

地元にあるチームを応援しサポートする方法は、実にさまざまです。最もダイレクトな支援は、会場に足を運び応援することであり、協賛金や寄付金という形で支援することかもしれませんが、ゲーム当日のボランティア以外にもシーズンの前や途中でチームのポスターを地域の商店などに掲示していただけるように依頼して歩いたり、ゲームの当日には必ず家や店の入り口にチームのフラッグを飾るといった応援や支援の方法もあります。

サッカーJリーグのチームの地元でも、草津や水戸では地元の企業や商店が選手を雇用し生活を守るといった形で支援しているケースもあり、クラブと連携し選手の食事や散髪などを無料もしくは格安で引き受けているケースもあるといえます。ある意味では、こうした取り組みではクラブ・チームと地域との距離はきわめて近く、応援することで得られる喜びもその分大きいのではないのでしょうか。となるとボランティア(精神)のスタートは「出来ることから」といえそうです。あわせてこれからのことから、スタジアムでチームを支えるボランティアは決して特別なものではないということをぜひ知ってほしいのです。

(2) 仲間との交流～人とのコミュニケーションが楽しい

<ファンとボランティアは紙一重>

スポーツのボランティア活動に参加するとゲームの都度たくさんの観客をお迎えします。イタリアのセリエAでは何世代に

もわかって特定のクラブの指定席を購入し続けることで近くのなじみの家族との交流が生まれ日本でもそんな光景が増えてきているといいますが、ボランティア活動を継続していても自然に観客にも顔なじみが増えて、そこがある種の社交の場となります。ボランティア同士や観客とのふれあい、その楽しさは共通の目的があるだけに格別です。

また、ボランティアを続けることでチームがより好きになり、親しい仲間とアウエーのゲームの応援に出かけるようになった人々があります。その意味では地域との接点、地域からのサポートという視点でボランティアの活動の意義は大きいと考えられます。したがって「ファンクラブ」や「後援会組織」の登録者数には厳しく目を向けながら、よりチームに近く、より熱心にサポートしてくれるボランティアの登録者数には全く関心をはらわない、ということは本来あってはならないことだと思います。

< 次の楽しみ >

ボランティアの活動の中では「会話」し「協力」し合うことが重要です。活動は一人ではできないものがほとんどでその助け合いは「感謝の気持ち」を生み、互いを「認める」ことにつながります。たとえば、同じポジションでは時間があれば休憩や食事について話し合っ調整することでしょう。先に行く場合は「お先に失礼します」。戻れば「ありがとう」。という会話が生まれます。わからないこともお互いに質問し短い時間を支えあうのです。その会話の中で互いの趣味を知り、そこに興味を感じれば一緒に何かをしようということになります。前述の「応援旅行」もそのひとつです。シニアのボランティア同士でゲーム・イベントの日以外に「ゴルフ」に出かけたり、「踊り」のグループを作ったり、様々な活動に発展しているケースもみられます。最初から自分の趣味仲間を増やそう、という目的で参加するのは感心できませんが、活動していく中で互いを理解しボランティア活動以外のテーマで時間を共有する、それは特に会社勤めや家事で長い間閉ざされた空間でのみ生きてきた人にとって、新鮮な仲間作りのきっかけになっているようです。

< 広がる世界 >

急速に広がるスポーツボランティアの活動の場、そこでボランティアが担当する活動内容はかなりの多くの共通性があります。特にプロチームのゲーム運営であればゲート周りや案内、そしてエコ活動が中心となっています。そのために、初めてあった地域やチームが違うボランティア同士であっても、経験や課題について話し合うことができるのです。

1993年に誕生したJリーグでは、既に紹介したように大半のチームでボランティアが活動しています。そのボランティアは年1回全国のJリーグクラブをサポートする組織が持ち回りで開催しさまざまなテーマについて意見交換を行う「全国ホームタウンサミット」や、リーグのオールスターゲームの開催地で実施される「オールスターボランティア」という、全国のJリーグチームのボランティアが集まりオールスターゲームのサポートと交流を目的としたイベントを通じて、面識を持ち情報交換を行っています。さらに、次のステップとして互いの対戦ゲームなどで体験ボランティアとして相手のホームスタジアムでボランティア活動に参加し、その良いところを学び自分たちの活動に活かそうとする交流も活発化しています。

その後誕生したプロスポーツのボランティア組織では、残念ながらまだサッカーのような交流は多くはありません。しかし、今後活動する人々が成長していく過程において積極的にネットワークを作る動きが出てくると予測されます。地域内のボランティア組織同士はもちろん、全国のボランティア組織との交流と連携、それが更に次のステージにつながっていくはずですが。

(3) テーマを持って ~ 活動が進歩する楽しさ

< 目標を共有する >

どんなスポーツイベント、スポーツのリーグやチームにも役割や目標があります。たとえばサッカーのJリーグでは、その理念を3つにまとめています。

「日本サッカーの水準向上及びサッカーの普及促進」

「豊かなスポーツ文化の振興及び国民の心身の健全な発達への寄与」

「国際社会における交流及び神前への貢献」

このリーグの理念のもとに、そこに所属する各クラブもまた、より明確な活動理念をまとめています。ここでは、浦和レッズの例を紹介します。

「浦和レッドダイヤモンズは、社会の一員として青少年の健全な発育に寄与します。」

「浦和レッドダイヤモンズは、地域社会に健全なレクリエーションの場を提供します。」

「浦和レッドダイヤモンズは、さいたまから世界に向けて開かれた窓となります。」

浦和の場合ボランティアは「スチュワード」という名称と呼ばれ、後援会が運営していますが、その活動の背景にある理念はリーグやクラブと共通しているのです。また、イベントやチームによっては更に「ごみの削減」や、「ボランティア参加者の増加」など具体的な数値も含めて説明会などで目標を示すところも増えています。ぜひ、そのことを忘れずに活動に参加したいものです。

< 時代とともに・エコへの取り組み >

1997年12月に京都で開催された「気候変動枠組条約第3回締結国会議(COP3)」で採択され、二酸化炭素(CO2)など6種類の温室効果ガスについての排出削減義務などを定めた京都議定書の日本の目標である6%削減達成の約束期間が、

2008年4月からスタートし2012年までとなっていることで、従来は製造業などの企業とウォームビズ・クールビズの取組みなど行政が主体であった「チーム・マイナス6%」の活動が、少しずつスポーツにも広がっています。たとえばプロ野球の日本野球機構では「グリーンベースボールプロジェクト」と題して、ゲームの時間短縮による照明などのCO2削減のほか、チームごとにさまざまな目標をかかげて環境活動に取り組んでいますし、仙台では「エコシティ仙台・プロデュースプロジェクト」をサッカー・野球・バスケットボールのプロ3チームと環境市民団体・ボランティア・観客が連動して進めており、分別率を高め、可能な範囲でのリサイクル率アップに取り組んでいます。

レジ袋や家庭ごみの処理料の有料化などに向けて、多くの子ども含む観客が集まるスポーツイベントだからこそ啓蒙の意味も含めて社会の動きに即した取組みが大切です。ただし、現在の取組みは全国的にはまだまだ点であり内容もバラバラ、これをどうネットワーク化しより効果の上がるものにするか取組みは始まったばかりです。

< 災害や救命の活動との連携 >

家族でのスポーツ観戦、それは平和の象徴ともいえるシーンです。しかし、観客が増加しイベントの機会がふえることは一方でさまざまな危機管理面でのリスクが増えることであり、「事故」「急病」「地震」「台風・大雨」「停電」など万が一のトラブルに対する準備が運営する側に求められるのです。しかし、現実にはスタジアムや体育館などからの避難訓練すら少なく危機管理全般に十分な体制がとれているとはいえないのが実情です。

予測できない災害や事故はチーム側・主催者側のスタッフとしてみられるボランティアにとっても無縁のものではありません。最初に「救命」ですが、病人やケガ人が発生した場合、まず主催者のスタッフに連動しその指示をあおぐことが大切です。しかし、初期の対応として消防署などが定期的に地域で開催している「救命講習」などに参加し基本だけでも理解していれば、その分だけ冷静で適切な対応が可能になります。その知識や経験は決してボランティア活動時だけにいきるのではなく、通常の家や職場での生活時にもいきるもの、ぜひ自ら積極的に受講したいものです。

次に「災害」ですが、多くのスポーツ施設は災害時には避難所として決められている場合も多く、直近では中越地震の際にサッカーアルビレックス新潟のホームスタジアムである「ピックスワン」の駐車場が「支援物資」の集積所として使用されるなどここの際には地域の拠点として重要なものとなります。まずはその意味を十分に理解し自分たちが活動する施設をみようとすると良いでしょう。

また、イベント開催時の災害では、Jリーグの大分トリニータの熊本での主催ゲームにおいて、大雨の影響でゲームが中断しさらに駐車場に停めていた観客の車が水没し被害が発生、同じく甲府の試合ではゲーム中に停電が発生するなどの事例がありました。多くの場合こうしたトラブルは突然発生します。災害発生時の心構えや、避難のための動線や場所については、定期的な研修会などを通じてぜひ確認しておきたいものです。また、不特定多数の人々のために活動するという面では、スポーツボランティアと災害ボランティアには共通性も多いとされます。日ごろから基礎知識を学ぶことでいざ災害発生時には地域社会のために役立つことも可能となります。災害組織との連携は今後のテーマとして大変重要なものになるのではないのでしょうか。

< 地域とのつながり >

プロスポーツでは継続的な観客数やそのベースとなる人気を拡大するために、実に様々な活動を拠点となる地域で行っています。その際にいまや当然のように使われるのが「地域密着」という言葉です。「地域」にはさまざまな住民がくらしていますし、広いエリアは様々な特性をもっているはずで、港が近い、山が近い、工場が多い、小さな商店が多い、大きなターミナル駅がある、その特性に合わせて何ができるのか、逆にいえば何が求められるのか違ってきます。

現在はJ1で強豪クラブに育ったチームがあります。その営業の方をお話したときにこんな話をききました。「確かに多額の協賛をしてくれる大きな企業はありがたい、しかし、景気などで左右されるそうした支援に対して、地域の商店や企業は金額は小さくても長く熱心に応援してくれるんです。ですから、大変ではあるけれども地域のサポート企業をいかに増やすかを大事にしたいと思っています。」彼のスケジュール帳には、そうした商店街のお祭りや打合せ日の日程がびっしりと書き込まれていました。

一方で、将来を見据えて小さな子どもへの取組みを徹底しているのがジュビロ磐田です。菅野さんというトレーナーは長年地域の幼稚園をまわって子供たちの食事も含めた体作りについて話し続けていますし、ミュージカルを作って子供たちを招待することもやりました。大切なのは、目先のことだけでなく将来を見据えての活動であるのでしょう。

「地域」、そこにはいろいろな世代の人が住み、企業・学校・行政をはじめたくさんの組織もあります。今、ここにいる私たちボランティアも、地域に戻ればそうした組織の一員であり、そこで出来る活動もまたあるはずで。

最後になりますが、ボランティア活動における「楽しみ」は、一人よがりのものではないからこそ、様々なつながりを生んでいる気がします。これは企業や行政でも同じでしょうが、こうしたボランティアの感じる楽しさに、運営に関わる人々はもっと目を向けていいと思いますし、ビジョンを共有するためのサポートがあってもいいと思うのです。

< SV2004代表理事 泉田 和雄 >

2008年12月14日(日)仙台市榴ヶ岡市民センター

市民スポーツボランティア「SV2004」誕生5周年記念イベントのひとつとして昨年12月に開催した「スポーツボランティア・フリートーク・フェスタ」の講演録がまとまりました。今回はその中から宮城のサッカーと野球に造詣の深いお二人の講演を掲載いたします。

「スポーツとボランティアのまち」宮城テレビキャスター 竹鼻 純 氏

昨日はとても残念でした。仕事で磐田へは行けませんでした。職場のテレビで応援しておりました。最後はマンチェスター・ユナイテッドの欧州チャンピオンズリーグのような、大逆転を期待していたのですが、ベガルタのJ1昇格はなりません。ベガルタについてはご紹介のあったとおり、とても縁が深いものですから残念でなりません。

昨年定年を迎えましたが、それまで36年間、ずっとスポーツにかかわってきました。今日のテーマである「スポーツとボランティア」のお話をするのに私がふさわしいかどうかは分かりませんが、宮城県のスポーツについては1972年に入社して以来ずっと携わって参りました。スポーツの実況についても十数年前まで経験しています。サッカーについてはベガルタの前身、ブランメル仙台がJFLに昇格した試合の実況中継が最後の実況でした。この試合はJリーグチームが東北にできるかどうかというプロジェクトの存続自体の重要な試合でした。大変に厳しい状況の中での2試合を担当したのが、私の最後の実況中継でした。

私は若いころはナマイキで、宮城県のスポーツ状況をなんとか変えたいと思っておりました。当時の宮城県のスポーツというのは国体の都道府県順位は47都道府県中、毎年40位前後でした。それをなんとか変えたいということを実際に思い、手始めとして、午後からのニュース番組で毎日スポーツを取り上げ、関心を高めようとしてきました。

当時、県内にプロスポーツはありませんでしたので、ほとんど高校生のスポーツ、それに社会人のアマチュアスポーツが中心でした。全国的にプロスポーツは野球に情報が偏っている状況で、社会人でもバレーボールやバスケットボールなどの日本リーグに所属しているチームすら県内にはなかった。目を付けたのが東北電力のサッカーと七十七銀行のバスケットチームで、ぜひ全国リーグを目指して欲しいと関係者をお願いしていました。

そのうちにスポーツコーナーは、ある程度視聴率がとれるということが分かり他局でも設けるようになりました。

サッカーとの出会いは全国高校サッカーの宮城県予選の中継からですが、宮城県サッカー協会の当時、理事長だった伊藤孝夫先生と知り合いになり、「サッカーとは世界で一番盛んなスポーツだ」といわれ、野球と全く違う世界観にひかれるようになりました。そのうちに宮城テレビの亀井社長にサッカー協会会長就任の話があり、引き受けて頂くよう説得しました。そしてサッカー協会に自分も携わるようになりました。

当時サッカーはマイナースポーツだったのでそれほど負担にはならないだろうと高をくくっていました。しかし、92年ごろから、各地で、プロサッカーチーム結成の動きが具体化しJリーグ設立への動きが活発になってきました。遅れてはならじと、宮城県協会もチーム結成へ向けて、署名活動を始めました。実はここからが大忙しでたいへんでした。市民も運動に加わり、最終的に三十三万人の署名を宮城県庁に持ち込み、ブランメル仙台結成の原動力となりました。

そのうちにワールドカップ招致活動が始まり、いつ本業の仕事しているのかといった状況でしたが、今日のプロスポーツ繁栄への過程として、とても幸せな時期だったなと思っています。W杯・国体・インターハイ・ブランメル仙台(後のベガルタ仙台)の誕生と宮城県におけるスポーツを取り巻く環境が一変し、スポーツ報道も過熱してきました。

宮城県サッカー協会に対する要求も高くなってきましたが、県サッカー協会はもともとボランティアで結成されており、苦しい部分もあります。一方、日本サッカー協会はプロで構成されており、様々な指示が毎日県サッカー協会に飛んできますが、こちらは専従者が少数しかおらず、日々闘いながら活動しております。

そうして宮城県のスポーツもいい方向に進んできたのですが、当時の中心であった利府のサッカー場は3千人の収容人数で、それでもブランメルは当時としては圧倒的な動員数でした。

そんな折、七北田公園にサッカー場を作る計画を聞き、なんとかJリーグ仕様にしてもらおうということになり、サッカー協会会長と当時の石井市長に陳情にいきました。

どうせ作るならいいものを作ろうということで、当時の市の公園課も熱心に取り組んでくれ、鹿島スタジアムなどの資料などを参考に、様々なアイデアを出し合いました。Jリーグブームを追い風にして、いろんなことがいい方向にいった結果、



スポーツ状況が変わったということです。

その後ベガルタ人気が発射してJ1昇格などもあり、チケットが買えないという状況にまでなりましたが、この成功がさらに受け入れる仙台の土壌になり、楽天・89ERSの参入などにつながったのは、いうまでもなく市民・ボランティアの皆様のお蔭であります。

大会運営からエコ活動まで大きな役割を果たしているボランティアなしでは宮城県のスポーツはなりたないということは疑いようのない事実です。

仙台のこのようなスポーツ状況は全国に自慢できる状況です。これからも4つのプロスポーツを支えていける地域であってほしいと思います。

また変われば変わったで、いろんな問題もあり、現在はアマチュアスポーツについてなかなか情報発信できないというのが悩みです。地方の放送局は規模に限りがあり、スタッフも機材もいっぱい、いっぱいの状態です。イベントは土日中心、放送は平日の昼間ということで休みがとれない状態であり、プロスポーツが充実する一方で、それを支える人が不足している状況です。

以前は荒川静香、宮里藍などの無名時代の取材記録があり、中・高生を取材し激励することが、選手への動機づけにもなっていたが、そういう役割が果たせなくなってきています。河北新報が一番頑張っていますが、それでも一時よりは減ってきていると言えるのではないのでしょうか。

スポーツは、「する、見る、支える」で成り立っているといわれていますが、固定化しつつあるのではないのでしょうか。本当は、もっとくっついていなければならないと思います。する人を見る、見る人が支える、支える人がするなど、相互に流動性があった方が、発展性が出てくると思います。

県サッカー協会も固定化が進み、問題になっております。指導する人がいつも決まってしまう、選抜チームの指導者なども重なってきています。ボランティアの方も同じだと思いますが、同じメンバーでの居心地の良さもあり固定してしまう傾向にあり、新しい人を入れていく工夫が必要だと思います。

一方で長期的な話をすると、スポーツをする子供たちが減っています。子供たちのコミュニケーション能力が落ちており、外で遊ぶことも少なくなっています。まず「する」からスポーツの楽しさを教え、引っぱり出すことが大事です。

スポーツは見る人が増えればする人も頑張り、する人が増えればしっかり支える人を増やす必要ができてきます。そのように相互に連動しているものなのです。

最後にあえて感じたことを言うと、今のボランティアには自分は参加しない気がします。というのも、自分は試合をどうしても見たいからです。日本のボランティアは堅苦しすぎる部分があると思います。ローテーションで、ボランティアも競技を見られる日を設けるなどの配慮があっても、いいと思います。

またこれは経営側の問題ですが、ボランティアは問題点をよく知っているので、球団側がボランティアの意見をきくシステムをつくるべきだと思います。

すべてが改善されるわけではないが、1つでも2つでも実現していけばよいと思います。

今から、来年のサッカー野球のシーズンが楽しみです。自分でも本当に好きだなと思うのですが、毎日夜になると楽天の試合を見ていて仕事が進まないほど応援しているので、来年はぜひ頑張してほしいと思っています。

報告「楽天イーグルスこの4年」 楽天野球団取締役副社長 池田 敦司 氏

みなさん、こんにちは。2005年に誕生した楽天イーグルスも早いもので4年が終わりました。ボランティアの皆様のお力をかりて4年間事故もなくできたこと、有難うございました。勝負事でございますので、苦しいところですが、言い訳が多くなります。

野村監督も3年目のシーズンに入り、Aクラスに入らなければ辞めるといった不退転の決意で臨んだ開幕戦でしたがドミゴが打たれ、その後も続いて3連敗となりました。その後持ち直し首位にたったこともあり、交流戦もいいところまでいきましたが、7月の成績が最悪で最下位が続き、最終戦でソフトバンクをうっちゃり5位となりました。

負けた理由、その1は1点差ゲームが悪かったこと、2番目は連勝ができなかったこと、3番目は7月に1年分の借金をつくったということになります。本来強いチームは調子の悪い選手を調子の良い選手がカバーしますが、私たちは一緒に調子を落としてしまいました。選手層が薄く、ベテランに頼らざるをえなかったということで、全体的な戦力アップが必要ということになります。ただ野村監督のおかげで課題が見えてきました。明るい話題と言えば、岩隈の活躍があります。酷使と二段モーションで2005・2006は駄目でしたが、今年は投手三冠をとったうえ、パリーグ MVP・沢村賞のおまけまでつきました。年俵が経営的には心配なところです。(笑)

またリックも首位打者を取り、昨年の4位から5位に落ちましたが、首位との差は縮まっております。それだけ今年のパリーグは混戦でした。入場者数もほぼ右肩上がりとなり114万人を突破しました。以上が戦績のご報告です。



続きまして地域密着活動としては、小中学校訪問、マーティーキーナートの野球塾、マスコット活動などがありました。トピックスとしては夏休みの読書感想文が5000件から8000件近くに増えました。また震災の際には「がんばろう東北」のメッセージ活動、寄書き、募金、被災地のマスコット訪問を行いました。選手会でも高須会長がいち早く義捐金を申し出て、選手にも地域密着の意識を感じました。

肝心のボランティア活動ですが、7月3日には4年間で参加者通算1万人を突破しました。1試合40人前後のご参加の積み重ねで達成することができました。またニューエコステーションの設置の際には、お化粧直しなどにリーダーさんの意見を取り入れました。

ボランティアの平均年齢は50歳、回数は13回です。ゴミの量は右肩下がり、総量・1試合平均ともに皆様のおかげで減少しました。

また観客1人あたりの量も減っております。リサイクル率、分別率も15パーセントを突破し、お客様に浸透しました。野球界にも環境活動がオールスターを契機にして浸透しました。

NPBでも「クリーンベースボール」を掲げ、試合時間を短縮し、CO2削減に協力しましたが、楽天も年間30.5トン削減とかなり貢献できました。4年間の蓄積が確実に体質化してきた結果です。ただ12球団全体ですと目標には達成できず、グリーン電力購入を行うこととなりました。全体への発信としては、「夏スタ」においてエコブースを設置し、環境活動の手作りPOP、自家発電機体験などを行いました。

その他としては、町内会などと連動して、宮城野大通りでカラスコも参加（ゴミあさり）し、清掃活動を行いました。観客数は、1試合平均15,959人、ビジター平均では楽天が1位となり、他球場でお客様が呼べる球団となりました。また新聞社調べでは、巨人、阪神、中日に続き、好きな球団4位となり、仙台での熱い応援が全国に広がりました。というのもTV、雑誌、新聞への取り上げられ方が多く、換算すると350億円くらいの露出度となっております。マークンやノムさん効果でどんなに成績が悪くともTVに出ない日はなかったためでもあります。

来年こそは胴上げで終わってほしい、最後の花をきっちり飾っていただこうと思っております。経営状況ですが、戦力補強・改修などでプロ球団はお金がかかるため、近鉄のように親会社の業績が苦しくなりと切り捨てられかねない状況にあります。

昔のジャイアンツのように莫大なTV放映権収入などもないので、親会社に頼らず、お客様に支えられた自立した健全経営を目指していきたいです。

現在は秋季キャンプ中で、オフシーズンですが、ドラフト会議・FA・トレードで新戦力が加入し、中村紀洋、小坂 誠には若手の先生としても活躍してもらいたいです。

外国人ではダレル・ラズナー、マット・チルダーズなどの投手を補強し、来年こそ今年みたいな事のないようにしたいと思います。昨年は野村監督も4位でおめでとと言われる東北のファンの温かさに驚いたと言っていました。ですが、石の上にも3年、仏の顔も3度までということで、最低でも3位、2位以上のクライマックスシリーズの出場を目標にしたいと思います。

2009年のファンクラブの加入数も昨年をこえ、砂かぶり席の改修も予定されております。初めてのオープン戦も開催され、シーズン開幕は4月3日の札幌、ホーム開幕は4月7日となっております。

5年目の来年こそは勝利の喜びを分かち合いたいと思っておりますので、変わらずのご声援をよろしくお願いいたします。

お断り （この内容は全て2008年12月14日段階のものとなっております）



FROM 長野

ボランティアブログが元気を作る

Jリーグをめざすクラブが激しいリーグ戦を闘っているのが「サッカー北信越リーグ」です。多くのクラブでボランティアが活動していますが、「松本山雅FC」ではボランティアブログが開設されていて、「研修の報告からボランティア応援ツアー報告まで、活動報告が定期的に更新されていますよ」との情報をいただきました。そのブログの記事にもありましたが、チームスタッフ・サポーター・ボランティアなどの距離がとても近いのが特色であり、連携して様々なことに取組んでいる姿やそこから得ている「楽しさ」が伝わる内容になっていました。ぜひ、ご覧ください。

松本山雅FCボランティアブログページ http://blog.goo.ne.jp/gans_volunteer

FROM 新潟

スポーツで幸せなまちづくり実行委員会

する人・見る人・支える人、それらを語ったりする人などスポーツがあることでさまざまな人のつながりや行動が生まれます。勝敗もあるけれどその多くは人を幸せにするものだと思います。そんな思いを集め「スポーツで幸せなまちづくり実行委員会」というものを立ち上げたのが新潟で、サッカーやバスケット、野球の独立リーグから陸上、そしてウィンタースポーツまで「アルビレックス」という名称を用いたそれぞれのクラブ・会社が活動していることや、今年国体が開催され11月にはホームタウンサミットも開かれることなどを背景に、まずは新潟駅からピックスワンまでの間にバナーを掲示し、アルビカラーを全面的に打ち出そうとしています。

大切なことは、実はバナーを掲示するという結果ではありません。多くの人や組織が連携し「スポーツで幸せなまちづくり」をしようとしていることだと思います。これからの取り組みに注目したいと思います。

スポーツで幸せなまちづくり関連 <http://nolimits.justblog.jp/mentalliteracy/2009/04/post-2b09.html>

FROM 東京

東京マラソンのボランティアレポート

スポーツボランティアという言葉で検索すると笹川スポーツ財団のWebマガジンがあり、開いてみると3月に開催された東京マラソンのボランティア活動の報告が既に掲載されていました。内容を読むとどうやら最初からボランティア活動をレポートするために、人が配置されていてその方が自ら取材しまとめている部分と、活動に実際に参加した人々からの声が豊富な写真とともに紹介されていました。規模の大きさということを考えればこれは実に合理的なやり方に思えます。まずきちんと活動をレポートすること、記録することを意図している点、事前のイベント、マラソン当日はほぼ全てのコース、ポジションを効率よくまわって印象を語っている点がポイントで、できれば全国各地のスポーツボランティア活動においても、専任ではなくてもこうした記録係りのな人を決めて、仲間だけでなく関係者に対しても実情をレポートする仕組みがあればと思いました。

笹川スポーツ財団 Web マガジン <http://www.sfen.jp/sportv/index.html>

FROM 東京

Jリーグ・ボランティアの活動紹介

Jリーグの公式ホームページ、そのトップページの下に「関連書籍・コラム」という欄がありそこに「Jリーグ・ニュースプラス」のページがあります。その第7号のタイトルが「ボランティアという幸せ」でした。この特集では前半がFC東京・市民スポーツボランティアの活動を紹介しています。集合から準備の様子、開門からゲーム中、そして終了後の様子までことこまかに取材し、あたたかい目線でまとめられているレポートは、味の素スタジアムに限らず全国のあちこちで共通してみられるものかも知れません。また、特に参考になるものとして初参加のボランティアに担当リーダーがついてそれぞれのポストを回りながら仕事を覚えてもらう「アテンド制度」や、キックオフ後は運営上多くの人数は必要なくなるため試合を観戦できる仕組み、最終戦あとにスタジアム近くのオープンスペースで500円の参加費で開催される打ち上げ、そこに参加する社長や常務。レポートは「年齢も性別も職業もバラバラな人々が集まり、地元にあるJリーグのクラブを支える楽しみを共有することで生まれた、とても素敵なコミュニティがそこにはあった」と表現しています。さらに、「このクラブがあり、このボランティア仲間がいたからこそ、彼らの人生に幸せな時間がひとつ増えたのではないかと続くのです。

Jリーグニュースプラスページ <http://www.j-league.or.jp/document/jnews-plus/>



SV2004について

【誕生の経緯】

SVとは、文字通り「スポーツボランティア」の略であり、1998年からスタートした「ブランメル仙台」(現在はJ2ベガルタ仙台)のボランティアや2001年の国体、2002年のワールドカップ宮城大会のボランティア経験者の有志が集まり、幅広いスポーツをボランティアとしてサポートする目的で2004年に発足しました。

役割 (ミッション)

スポーツをより楽しくコーディネートし、ネットワークを通じて、環境改善にも取り組むことでスポーツの振興と、スポーツに関わる人々の社会的認知を高めることに貢献します。

私たちはスポーツのボランティア活動は「楽しく」あるべきだと思います
そのため、ボランティアと運営組織、ボランティア同士のコミュニケーションを大切にします
思いをともにする人々とのネットワークを構築します
活動するボランティア環境の改善、そしてエコ活動にも取り組みます
サポートするイベントが継続しよりよいものになるようサポートします
スポーツボランティアの活動が多くの人に理解し知っていただけるよう活動します

活動 (アクション)

活動の記録・報告はSVホームページをご覧ください

スポーツ全般のコーディネート活動 … 楽天イーグルス・仙台89ERSボランティア組織立ち上げサポートなど
スポーツ及びボランティアのセミナー活動 … 接客・エコ・救命・災害・コミュニケーション・入門セミナーなど多数
スポーツに関する調査・企画・提案活動 … ボランティアアンケートの実施など
スポーツ情報発信活動 … SVニュース、ホームページからの情報発信など
スポーツネットワーク・交流活動 … 全国スポーツボランティアとの交流会の開催、東北スポーツボランティアサミットの開催
スポーツ環境改善活動 … チーム・マイナス6%との連動・エコステーションの普及取り組みなど

会員募集中！自主企画も含めたSV活動全般に参加するSV会員と
活動趣旨に賛同するサポート会員があります

【入会方法】

SV会員 … 年会費1,000円 (年度は4月～翌年3月となります)

サポート会員 … 年会費2,000円

お支払い方法…郵便振込み 郵便口座 18190-25930651 SV2004まで(振込み料はご負担願います)

または、SVが主催するイベント会場にて入会を受け付けます。(イベントはホームページでご案内します)

申し込み先 郵送の場合 〒980-0811 仙台市青葉区一番町4丁目1-3 仙台市市民活動サポートセンター SV2004

レターケースNO.50 (必ずレターケースNOをご記入ください)

メールの場合 izumita@dm.mbn.or.jp FAX 022-274-1469

申し込み書はホームページよりダウンロードできます <http://www.miyagi-sports.net/sv2004/>

多くのチームでボランティアを募集中です

野球・独立リーグ < 各チームの公式ホームページより >

BCリーグボランティア

【群馬ダイヤモンドペガサス】 ボランティアページ <http://d-pegasus.com/news/detail.cgi?id=38>

【新潟アルビレックスBC】 ボランティアページ <http://www.niigata-albirex-bc.jp/index.php/volunteer/>

【信濃グランセローズ】 ボランティアページ http://www.grandserows.co.jp/_contents/volunteer.php

【富山サンダーバース】 サポートスタッフページ <http://www.t-thunderbirds.jp/application/staff.html>

【石川ミリオンスターズ】 ボランティアページ http://www.m-stars.jp/volu_boshu.html

【福井ミラクルエレファント】 ボランティアページ http://www.m-elephants.com/?page_id=1502

四国・九州アイランドリーグボランティア

【愛媛マンダリンパイレーツ】 ボランティアページ <http://www.m-pirates.jp/supporter/volunteer.php>

【香川オリーブガイナース】 ボランティアページ <http://www.oliveguyners.jp/volunteer/>

【徳島インディゴソックス】 ボランティアページ http://www.indigosocks.jp/asp/nwsitem.asp?nw_id=124

【高知ファイティングドッグス】 ボランティアページ <http://www.fighting-dogs.jp/volunteer.htm>

【福岡レッドワblers】 ボランティアページ <http://www.redwarblers.com/volunteer.html>

【長崎セインツ】 長崎セインツクルースタッフページ <http://www.dreamerproject.com/club/index.html>

関西独立リーグボランティア

【大阪ゴールドビリケーンズ】 ボランティアページ <http://www.osaka-goldvillicanes.com/boranthia.html>

【神戸9クルーズ】 サポートクルーページ <http://www.kobe9.jp/?p=536>

【明石レッドソルジャーズ】 ボランティアページ <http://www.akashi-red-soldiers.jp/staff/index.html#volunteerTxt02>

【紀州レンジャーズ】 ボランティアページ http://www.kishu-rangers.jp/recruitment/recruitment_staff.html

2010年より参加予定チーム 【三重スリーアローズ】 ホームページ <http://www.mie-baseball.com/> (準備中)

(注意) 内容は09年5月10日段階のもので、各チームの都合により変更される場合がありますのでご了承ください。

THANKS < 今月号のSVニュースの発行に対しご協力いただいた皆様、ありがとうございました。 : 敬称略・順不同 >

原田 裕次 山崎 真 浅見 圭一 鈴木 達也 渡辺 英樹

小沢 三紀夫 亀田 武志 大谷 光正 福田 章 山本 達也

金子 法泰 風間 敏行 高橋 勝志 竹鼻 純 池田 敦司

スポーツボランティアの前向きな情報(募集・活動報告など)を募集いたします。経験をいかし、成功事例を学ぶ場としてSVニュース活用願います。(提供先は下記に記載)

編集後記

ここ数年ネット環境の進歩もありスポーツのボランティアに関する情報が増えてきています。その中で繰り返し問われているのは「ボランティア活動への参加の動機」であり、継続的に活動するための「要因は何か」ではないでしょうか。組織的なリーグボランティアの活動が始まって15年、他のスポーツにも確実に広がりを見せていますが、今も昔も活動している人の多くが「楽しさ」を参加や継続の「動機」にしていることは確かです、しかし、その中身はこのところ大きく変化してきているように思います。スポーツのボランティア活動を通じた「楽しさ」「楽しみ」とは一体なんなのか、今月のSVニュースではそのことを特集しています。特に全国の仲間へのアンケートの回答には、楽しく活動するためのヒントがたくさんありました。参考にできれば幸いです。

このSVニュースはSV2004の公式ホームページでもご覧になれます。 <http://www.miyagi-sports.net/sv2004/>

スポーツボランティア活動に関する情報をお寄せください。

情報提供先 izumita@dm.mbn.or.jp